

## モモせん孔細菌病に注意！ 発病枝除去と初期防除を徹底しましょう！

### 1 モモせん孔細菌病の発生状況等

- ◆ 昨年は、モモせん孔細菌病の発生が多く、多発ほ場も認められました。本病は前年の発病作物が伝染源となるため、昨年発生したほ場では今年も発生の恐れがあります。
- ◆ 今年4月11日の巡回調査でも、葉の展開の早い若木で発生が確認されています。
- ◆ 4月13日大阪管区気象台発表の1か月予報によると、向こう1か月は平均気温は高め、降水量は平年並みか多い見込みで、本病の発生しやすい条件のため注意が必要です。
- ◆ ほ場をよく見回り、初期防除を徹底して発生を防ぎましょう。



葉の病斑（初期発生）



もも果実の被害



発病枝（春型枝病斑）

### 2 モモせん孔細菌病の生態等

- ◆ 葉や果実の気孔や傷口から侵入する。生育適温は25度程度。
- ◆ 風当たりの強い園地で発生が多くなる。
- ◆ 降雨が多いと発病しやすく、風を伴う雨を受けた後は特に多くなる。

### 3 モモせん孔細菌病の防除対策

- ◆ 伝染源となる発病枝は、樹に病斑を残さないよう健全芽数芽を含めて摘除し、ほ場外で処分する。
- ◆ 薬剤防除は多発してからでは効果が劣るため、早めの予防散布を心がける。降雨前後が効果的。
- ◆ 開花後は薬害が発生するので、ICボルドー412は散布しない。
- ◆ 薬剤防除を行う際は収穫前日数に十分に注意する。特にアグリマイシン-100は収穫60日前までの使用のため、早生種では使用時期に注意が必要。
- ◆ 風当たりの強い園地では、防風ネット等を設置する。

表2 ももせん孔細菌病の主な防除薬剤

薬剤名	希釈倍数	使用時期	本剤の使用回数
アグリマイシン-100	1,500倍	収穫60日前まで	2回以内
マイコシールド	1,500~3,000倍	収穫21日前まで	5回以内
スターナ水和剤	1,000倍	収穫7日前まで	3回以内
バリダシン液剤5	500倍	収穫7日前まで	4回以内
チオノックフロアブル	500倍	収穫7日前まで	5回以内

【防除、薬剤については以下も参照ください】

- Web版大阪府病害虫防除指針「もも」(右QRコード)

<http://www.jpnp.ne.jp/osaka/shishin/body/1612/1612%20X%20momo.pdf>

- 農林水産消費安全技術センター (FAMIC) 農薬登録情報提供システム

[http://www.acis.famic.go.jp/index\\_kensaku.htm](http://www.acis.famic.go.jp/index_kensaku.htm)

